

## 国語

(分析は一般入試Aの問題のみです)

## 出題傾向

※第二問は現代文または古文のどちらか選択

入試日程	大問	問題文筆者・書名(出典)	難易度
2/3	第一問	津野海太郎『読書と日本人』	標準
	第二問 【古文】	『松浦宮物語』	やや難
	第二問 【現代文】	黒井千次『老いのかたち』	やや難
2/4	第一問	黒川伊保子『怪獣の名はなぜガギゲゴなのか』	標準
	第二問 【古文】	『堤中納言物語』	標準
	第二問 【現代文】	中山元『アレント入門』	標準
2/5	第一問	今福龍太『ヘンリー・ソロー 野生の学舎』	標準
	第二問 【古文】	阿仏尼『うたたね』	標準
	第二問 【現代文】	岸本幸臣『生活すること—家庭生活のための社会の発展—』	やや易

## 【現代文】

今年度もほとんど評論文の出題で、2/3の第二問のみ随筆であった。

文章のジャンルは、読書論、言語論、家政学、外国の著述家・哲学者の思想の解説、老いをテーマとした随筆と、さまざまであった。多くは論理展開や論旨の明確な文章の出題だが、2/3の第二問は老いというものをテーマとした滋味のある随筆で、若い受験生にはピンとこなかったかもしれない。

設問は、漢字、語句の意味、接続詞や語句の空欄補充、傍線部の内容説明または理由説明、内容理解、内容合致など、入試の定番である。設問数は第一問で10～13問、第二問で12～13問(枝問あり)。解答形式はすべてマークシート方式(五者択一)である。設問全体の難易度は、総じて標準であるといえる。

## ○第一問

文章量は、約3,200～3,900字程度で、第二問よりやや多めである。昨年度よりは若干増えている。設問内容は漢字の書き取り、読み、語句の意味、空欄補充問題、内容理解の問題、理由説明問題、内容合致もしくは筆者の見解を問う問題など。

## ○第二問

文章量は、約2,900～3,400字程度で、第一問よりやや少なめである。こちらも昨年度よりは若干増えている。設問内容は、漢字に関する問題が少ないだけで、第一問と比べてあまり違いはない。

## 【古文】

今年度の出典は、平安時代の作り物語、鎌倉時代の作り物語、日記。文章量は、2/3が1,250字程度、2/4が1,710字程度、2/5が630字程度とばらつきがある。設問数は11～14問。設問内容は、単純な語義の問題は少なく、漢字の読み、文法、古典常識、和歌の修辞、文学史、主体判定や人物指摘、敬意の対象、心情理解、解釈など多彩である。具体的な傾向は以下の通り。

- ・ 解釈の問題は、傍線部の直訳ではなく、前後の内容を踏まえたかなりの意識になっている。
- ・ 文法問題は、係り結びの法則(2回)、「なむ(なん)」の識別(2回)、「る」の識別、「に」の識別、品詞分解であった。
- ・ 内容理解型の問題は、文章の中で起こっている事柄の読み取り、登場人物の心理や思考の理解など深い読解力が必要なものが多い。
- ・ 今年度は、主体判定や敬意の対象など、省略されている主体客体の把握ができていのかどうかを問う設問が多く出題された。昨年度多かった文学史は、今年度、一度だけ。

総じて、幅広い知識と、文脈を正確に読み取る力、選択肢を丁寧に吟味することを要求する問題である。解答形式はすべてマークシート方式(原則五者択一)。設問全体の難易度は、総じて標準であるといえる。

## 国語

(分析は一般入試Aの問題のみです)

## 学習対策

## 【現代文】

## ●筆者のイイタイコトをつかまえよう

評論の筆者は自分の意見（イイタイコト）を読者に伝えようとして文章を書く。しかし、ただイイタイコトをそのままぶつけても誰も納得してくれない。そこで、論拠を挙げ論理的に説明を加えて自分の意見に説得力を持たせようとする。入試現代文は、その筆者のイイタイコト、論の展開を受験生がしっかり把握することができたかどうかを調べるために設問設定をしている。よって、問題を解く際は、まずこの文章では何がテーマ（話題）になっているのかをつかまえ、接続詞や強調語などを道しるべに、筆者の論の展開を正確にたどり、最終的にこの文章のイイタイコトはこれなのだ把握するようにしよう。そのためには、普段から新書レベルの読書を心掛け、ただ漫然と読むのではなく、各章各節で上記のことを意識するとよい。問題集に取り組む際も同様である。

## ●幅広く国語の知識を身につけよう

梶山女学園大学では、第一問・第二問を通して漢字や語句など、知識を問う設問が出題されている。知っていれば解ける問題である。漢字の問題集や国語知識の問題集に取り組み、評論でよく使われるような語句などをマスターするとよい。また普段の生活や読書を通して知らない言葉や事項に出合ったらこまめに辞書や国語便覧を調べるなどして語彙力や知識を身につけるよう心がけよう。漢字の問題集をやる時も同様である。また文学史が出題されることがあるので、問題集や国語便覧を通して、著名な文学者とその作品名、主義、流派などを覚えておこう。

## ●マーク式問題になれよう

センター対策問題集やマーク式の私大対策問題集に取り組もう。ただやみくもに読んでなんとなくぴんと来た選択肢を選ぶのではなく、繰り返しになるが、その文章のテーマがどうで、どういう論理展開の上で、どういう結論（イイタイコト）を導いているのかを把握した上で設問に取り組むこと。マーク式の問題集は上記のことが押さえられていれば選択肢を一つに絞れるように作られている。選択肢で迷った時には、選択肢をじっと見て考えこむのではなく、設問が何を問っているかを押さえた上で、常に本文に立ちかえり、本文と選択肢、選択肢相互の異同を照合して判断するようにすること。また全体の設問量が多いので、過去問に取り組んで、時間配分の練習をしておくとうい。

## 【古文】

## ●基礎知識の充実をはかろう

今年度も古文の問題は半数近くが、単語や文法、文学史などの基礎知識があれば解答できる問題であった。また、解釈問題はかなり意識した選択肢が正解で、一見高度な問題に見えるものも多かったが、まずは文法や単語知識で選択肢を絞り、その後に本文内容と照らし合わせて確認すれば正答できるものも多かった。ベースは基礎知識である。古語については400～500語程度を単語帳などでマスターすること。重要古語のほとんどは多義語であり、複数の訳し方を身につけておかねばならない。その語の語源・語感を理解した上で訳し方の幅を押さえ、例文の中でふさわしい訳語を選ぶ練習をすること。

文法は用言の活用を基礎として、助動詞の接続・活用・意味・訳し方、助詞の意味・訳し方、敬語の種類・用法をきちんと覚えておくこと。「なむ（なん）」「らむ」「なり」「に」「る・れ」など頻出の識別問題にも慣れておきたい。以上のような文法知識は解釈問題の選択肢選びの際にも強力な武器になるはずである。文学史、古典常識についても地道な努力を続けてもらいたい。

## ●一人で文章を読み解くことに慣れよう

上記の基礎知識を身につけつつ、私大対策の問題集を使って、実際の問題の中で基礎知識を使って解く練習をしよう。問題文の中で学習した単語に出会い、その文脈での意味を考えたり、傍線部の中にある重要古語、助詞助動詞、敬語に着目して選択肢を絞ったり、あるいは解けなかった、間違えた箇所に含まれる単語や文法事項をもう一度辞書や文法書に立ちかえって確認したりする中で基礎知識の定着をはかろう。また、問題集で出合った作品について国語便覧を使って文学史的な面を調べる。設問に出てきた文学史事項や古典常識について学習するなど、有機的な学習をするとよい。

## ●作品として味わおう

現代語訳や解釈の問題、内容理解の問題では深い読解力を要求するものもある。問題集で文章を読む際、単に語学的な分析（単に現代語に置き換え訳す）のレベルでとどまるのではなく、その文章でストーリーがどのように動いているのか、この箇所ではどういう事柄が起こっているのか、この部分で登場人物がどんな心理状態にあるのかを読み取るように心がけよう。また、セリフについても、ここでその登場人物はどのような意図でそんなことを言うのか、なぜこんな発言をするのかまで考えて、作品を味わい、深い読解力を身につける努力をしてほしい。